２０２０年　1月　２９日

広島大学理事・副学長（教育担当）
宮谷　真人 殿
広島大学教育室副理事（附属学校担当）
由井　義通 殿

広島大学教職員組合
執行委員長　中山　祐正
附属学校園諸問題検討委員会
委員長　佐藤　大志

附属学校園における今春の人事異動について

貴職の日頃の奮闘と当組合活動へのご理解・ご協力に敬意を表します。

さて，附属学校園間の人事異動については，この間，大学と当組合では多くの団体交渉及び，協議，懇談会を重ねてきました。

該当者の生活や研究等の人生設計に大きく係わることであり，また児童生徒への対応等にも影響が大きいことから，人事異動の内示にあたっては，事前に格別の配慮と十分な説明が行われることを改めて求めます。

つきましては，「団体交渉確認書　（平成 29 年 12 月 28 日）」及び「附属学校教員の人事異動の方向性について　（平成 30 年 10 月 10 日〔令和元年 7 月 12 日改訂〕）」を踏まえた人事計画をお願いいたしたく，確認まで申し上げます。

なお，10 月～12 月にかけて附属学校園の組合員と組合本部役員の懇談を持ちました。その中で出てきた意見を参考まで抜粋してご報告します。

「異動について」

●「附属学校教員の人事異動の方向性について」の「原則として採用から 5 年を経過して以降 50 歳台半ばまでの間に 1 回以上附属学校園の配置換を行う」について。教育職員は事務系の職員と同じ想定ではなく，異動の理由付けと目的を明確にすべき。「研修」についても現状では十分な研修機能を果たしておらず，明確な目的設定が必要だと思う。

●本人の希望により「研修」「配置換」が選べるのならよい。キャリアのひとつとして事前に説明が必要だ。異動（配置換）のあり方，研修のあり方，議論が必要。
●「落ち着いて働く」ということを考えたときに，異動年数よりも，教育面や生活面の見通しも十分考えないといけない。もちろん他所で経験をつむことを否定はしない。それなりの良さがある。しかし、本校のように中高6年で育てると考えたとき，例えばいきなり担任は持てず，着任 1 年目は実情を知り，環境に慣れることも必要であるなどと考えると，はたしてどのようなあり方がよいのかと思う。

以　上